

「議会ほっとミーティング」における住民意見等の取りまとめ

1 開催日、相手方及び懇談テーマ

令和8年8月9日（日） 町立六原幼稚園PTA役員及び保護者並びに評議員等 9名
懇談テーマ「金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進について」

2 出席議員

高橋美輝夫副議長、阿部典子議員、原由美子議員、及川権一議員、後藤紳一議員、
阿部一之議員、桼秋光議員の7名

3 町及び町教育委員会に対する意見及び要望

- (1) 六原幼稚園の閉園方針を5月29日の新聞報道で知り、6月22日の町教育委員会の地域説明会で再編計画の内容を初めて聞いた。保護者や地域住民への説明に先立って報道されたことに、強い不安と不信の声がある。令和9年度末での閉園は性急であり、見直してほしい。少なくとも、現に在園する園児が卒園するまでは継続してほしい。なお、出席した議員からも、永岡・三ヶ尻の両幼稚園が閉園まで数年をかけたのに対し、六原幼稚園は異年齢学級の編制が令和8年度から始まったばかりであるとの補足があった。
- (2) 6月22日の町教育委員会主催の地域説明会、7月13日の六原幼稚園PTA主催の意見交換会などで出された意見や要望が、再編計画の推進に反映されていない。特別な配慮や支援を必要とする園児が在籍している実態がある一方、「六原幼稚園を特性に配慮した小規模幼稚園には位置付けていません」との見解が示されるなど、現場や当事者の実情と町の認識に乖離がある。他自治体の休園事例を理由に急な公表となったとの説明では、当事者は納得できない。統合後の南方幼稚園で、支援を必要とする園児にどのような支援を行うのかも具体的に示されていない。再編計画策定時の議事録等も公開してほしい。また、出席した議員からは、行政、保護者、地域住民及び議会が、今後の六原幼稚園のあり方について冷静に協議できる場が必要であるとの意見があった。
- (3) 園児の減少傾向に歯止めをかけるため、PTAから町教育委員会に対して、朝の預かり保育の開始時間の繰上げと給食の完全実施を令和7年度に要望した。給食の完全実施は令和8年度から始まったばかりであり、朝の預かり保育の開始時間の繰上げについても、早期に実施してほしい。

- (4) 特色ある取組として、園児が六原鬼剣舞を練習し、産直ろくちゃんや農業大学のイベント、北部地区文化祭や学習発表会などで披露し、社会人になっても続けるきっかけになっている。現在の六原鬼剣舞の担い手の多くは幼稚園で剣舞に出会った人たちであり、閉園は郷土芸能の継承にも関わるとの意見があった。町教育委員会でも、園児数の増加につながる取組を進めてほしい。
- (5) 六原幼稚園には、特別な配慮や支援を必要とする園児が在籍しており、少人数で落ち着いて過ごせる施設環境がその育ちを支えているとの意見があった。統合先とされる南方幼稚園の開放的な施設構造については、支援を必要とする園児が落ち着いて過ごせる環境を確保できるか、懸念が示された。また、六原幼稚園と第一小学校は、県の事業を活用して幼小の連携に取り組んでおり、小規模だからこそできている取組もある。支援を必要とする幼児が増加傾向にある中、園児が落ち着いて過ごせる部屋の確保や専門性のある職員の配置など、受入れ環境を整備してほしい。
- (6) 閉園によりどの程度の経費削減が見込まれ、その分を幼児教育にどのように還元するのかについて、具体的な資料や説明が示されていない。幼児期に手厚い支援を行うことは将来の社会的費用の削減につながるとの研究を挙げ、目先の効率化がかえって中長期の負担増を招くおそれを指摘する意見もあった。住民が納得できるよう、データに基づく丁寧な説明をしてほしい。
- (7) 幼児期の教育は、非認知能力を育む人間形成の土台であり、その上に小中学校の教育が積み上がるものである。幼児期こそ少人数の環境で一人ひとりを見取って関わるのが大切であるという、幼児教育の現場経験に基づく意見をはじめ、丁寧な関わりの価値や幼児教育への投資の将来的な効果を指摘する意見が多く出された。出席した議員からも、町民憲章に教育と文化を高めることが掲げられていることに触れ、幼児教育にこそ力を注ぐべきとの発言があった。平成30年に策定された「金ヶ崎町立幼稚園再編計画」は、支援を必要とする幼児の増加など、その後の社会状況の変化を踏まえて見直すべきである。あわせて、六原幼稚園を小規模で質の高い幼児教育の先進モデル園として活用することや、0歳児から2歳児までを対象とした小規模保育の併設など、施設を生かした前向きな方策も検討してほしい。

(8) 北部地区では、幼稚園、小学校、農業大学校を結び、自治会や地区センターも含めて地域を盛り上げていこうと取り組んできており、六原幼稚園もその中に位置付けられてきた。近隣への企業や商業施設の立地など地域を取り巻く環境の変化を町の活力として取り込み、縮小一辺倒ではない、希望の持てる地域づくりの中に幼児教育を位置付けてほしい。

4 所感

議会ほっとミーティングでは、出席したPTA役員や保護者等の全員から、意見や要望が述べられた。また、当日配布された資料には、六原幼稚園の存続を願う園児の思いが記された手紙が含まれていた。

保護者や地域住民からは、閉園方針が突然示されたことに対し、不安や不信の声が多く寄せられた。また、閉園時期の見直しを求める意見に加え、子どもたちにとって何が最善かという観点から、幼児教育の重要性や財政面も含めて建設的に議論したいとの姿勢が一貫して示された。

閉園時期を再考するよう、町議会からも町に働きかけてほしいとの要望については、議会として重く受け止めるものである。

町及び町教育委員会におかれては、本報告に掲げる意見及び要望を踏まえ、保護者及び地域住民への丁寧な説明を尽くし、合意形成を図りながら、子どもたちにとって最善の幼児教育環境の確保に向けて対応されるよう、強く要望するものである。